

株式会社エコノス・ジャパン

第17期 (平成22年4月1日 ~ 平成23年3月31日)

貸借対照表及び損益計算書

貸借対照表 P2

損益計算書 P3

個別注記表 P4

貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位：円)

| 資 産 の 部 | | 負債及び純資産の部 | |
|--------------------------|------------------------------|----------------------------------|------------------------------|
| < 流 動 資 産 > | < 164,296,570 > | < 流 動 負 債 > | < 83,341,236 > |
| 現金及び預金 | 58,906,430 | 買掛金 | 29,536,151 |
| 受取手形 | 13,465,800 | 短期借入金 | 11,000,000 |
| 売掛金 | 35,336,120 | 未払金 | 3,267,421 |
| 商 品 | 10,102,971 | 未払費用 | 2,259,554 |
| 仕掛品 | 40,413,446 | 預り金 | 768,610 |
| 貯蔵品 | 20,920 | 前受金 | 26,100,000 |
| 前渡金 | 1,029,000 | 未払法人税等 | 91,300 |
| 未収入金 | 962,600 | 未払消費税等 | 5,359,700 |
| 前払費用 | 524,577 | 賞与引当金 | 4,958,500 |
| 仮払金 | 69 | < 固 定 負 債 > | < 676,000 > |
| 繰延税金資産 | 3,588,465 | 退職給付引当金 | 676,000 |
| 貸倒引当金 | △ 53,828 | 《 負債合計 》 | 《 84,017,236 》 |
| < 固 定 資 産 > | < 44,180,568 > | < 株 主 資 本 > | < 126,555,453 > |
| [有形固定資産] | [15,539,217] | [資 本 金] | [30,000,000] |
| 建 物 | 8,690,067 | [利 益 剰 余 金] | [101,555,453] |
| 機 械 装 置 | 235,257 | (その他利益剰余金) | (101,555,453) |
| 車 両 運 搬 具 | 1,420,747 | 繰越利益剰余金 | 101,555,453 |
| 工具、器具及び備品 | 4,850,009 | [自 己 株 式] | [△ 5,000,000] |
| 土 地 | 343,137 | < 評 価 ・ 換 算 差 額 等 > | < △ 2,095,551 > |
| [無形固定資産] | [2,435,645] | その他有価証券評価差額金 | △ 2,095,551 |
| 電 話 加 入 権 | 1 | 《 純 資 産 合 計 》 | 《 124,459,902 》 |
| ソ フ ト ウ ェ ア | 2,435,644 | | |
| [投資その他の資産] | [26,205,706] | | |
| 投資有価証券 | 12,729,907 | | |
| 出 資 金 | 50,200 | | |
| 破産更生債権 | 146,370 | | |
| 長期繰延税金資産 | 1,852,413 | | |
| 敷 金 | 1,050,000 | | |
| 保 証 金 | 2,900,000 | | |
| 施 設 利 用 権 | 7,550,000 | | |
| 貸倒引当金 | △ 73,184 | | |
| 資 産 合 計 | 208,477,138 | 負債及び純資産合計 | 208,477,138 |

損益計算書

(平成22年4月1日から
平成23年3月31日まで)

(単位：円)

| | | |
|--|---|--|
| 売上高 売上原価 売上総利益 販売費及び一般管理費 営業利益 | | 327,064,068 240,395,623 86,668,445 69,658,416 17,010,029 |
| 営業外収益 受取利息 受取配当金 その他の営業外収益 営業外費用 支払利息 手形売却損 その他の営業外費用 | 30,923 202,346 364,295 25,159 97,127 501,265 | 597,564 623,551 |
| 経常利益 | | 16,984,042 |
| 特別利益 貸倒引当金戻入額 特別損失 電話加入件評価損 | 220,843 126,879 | 220,843 126,879 |
| 税引前当期純利益 | | 17,078,006 |
| 法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額 過年度法人税等調整額 | | 8,234,217 △1,611,107 △2,367,511 |
| 法人税等合計 | | 4,255,599 |
| 当期純利益 | | 12,822,407 |

個別注記表

1 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

時価のあるもの・・・事業年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの・・・移動平均法による原価法

②たな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

- i 商品 個別法(一部については最終仕入原価法)
- ii 仕掛品 個別法
- iii 貯蔵品 最終仕入原価法

(2) 固定資産の減価償却方法

有形固定資産・・・定率法

ただし平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

| | |
|-----------|--------|
| 建物 | 15～39年 |
| 工具、器具及び備品 | 2～10年 |
| ソフトウェア | 5年 |

(3) 引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率を基に、今後の回収可能性を勘案した率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

③退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

なお、退職給付債務の額については、簡便法（退職給付に係る当会計期間末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）を適用して計算しております。

(4) 収益及び費用の計上基準

売上高及び原価の計上基準

製品については、当事業年度末までの進捗部分についての成果の確実性が認められる場合において、工事進行基準を適用しております。

(5) 消費税の会計処理

税抜方式によっております。

2 会計方針の変更

「税効果会計に係る会計基準」の適用

当事業年度から「税効果会計に係る会計基準」（企業会計審議会 平成10年10月10日）を適用しております。これに伴い、税効果会計を適用しない場合と比較し、繰延